

キリスト教徒の労働者、農民、兵士（ハンマー、鎌、剣）

わたしの言葉は火のようではないか。岩を砕く槌のようではないか。と主は言われる。（エレミヤ書 23:29）

鎌を入れよ、収穫の時が来た。さあ、下って来い。搾り場は満ち、脂は溢れ出ている。彼らの悪は甚だしい。ヨエル書 3:13

イエスはすべての町や村を巡り、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気や患いを癒された。群衆を見て、イエスは彼らを深く憐れまれた。彼らが羊飼いのいない羊のように、疲れ果てて散らばっていたからである。そこでイエスは弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。」マタイによる福音書 9:35-38

そこでイエスは彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。」ルカによる福音書 10:2

イエスは彼らに言われた。「わたしの食物は、わたしを遣わされた方の御心を行い、その御業を成し遂げることです。あなたがたは、『収穫まであと四か月ある』と言っているではないか。見よ、わたしはあなたがたに言う。目を上げて畑を見なさい。もう収穫の時が来ている。刈り取る者は報酬を受け、永遠の命に至る実を集める。種を蒔く者と刈り取る者とが共に喜ぶためである。このことから、『一人が種を蒔き、別の者が刈り取る』という言葉が真実であることが分かる。わたしはあなたがたを、あなたがたが労苦しなかったものを刈り取るために遣わした。他の人々が労苦し、あなたがたはその労苦にあずかったのである。」ヨハネによる福音書 4:34-38

わたしは、わたしを遣わされた方の業を、昼の間に行わなければならない。夜が来る。その時、だれも働くことができない。ヨハネによる福音書 9:4

ですから、愛する兄弟たちよ、堅く立ち、動揺せず、常に主の働きに励みなさい。あなたがたの労苦は主にあって無駄ではないことを知っているからです。（コリント人への手紙第一 15:58）

善を行うことに飽きずにいましょう。時が来れば、諦めなければ刈り取ることができるからです。（ガラテヤ 6:9）

そして、救いの兜をかぶり、御霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。（エペソ 6:17）

それゆえ、わが子よ、キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。そして、あなたが多くの証人の前でわたしから聞いたことを、忠実な人々に委ねなさい。そうすれば、彼らもまた他の人々

に教えることができるでしょう。それゆえ、あなたはキリスト・イエスの良き兵士として、苦難に耐えなさい。兵士として選んでくださった方を喜ばせるために、戦う者はこの世の事柄に巻き込まれてはならない。また、人が勝利を求めて戦うとしても、正当な方法で戦わなければ、冠を受けることはできない。テモテへの手紙第二 2:1-5

神に認められる者、恥じることのない働き人、真理の言葉を正しく解き明かす者となるよう、努力しなさい。(テモテへの手紙第二 2:15)

神の言葉は生きていて力があり、どんな両刃の剣よりも鋭く、魂と霊、関節と骨髄を切り裂き、心の思いと意図を見分けることができる。(ヘブライ人への手紙 4:12)

しかし、義人は永遠に生きる。彼らの報いは主のもとにあり、彼らの世話は至高者にある。それゆえ、彼らは主の手から栄光の王国と美しい冠を受けるであろう。主は右の手で彼らを覆い、その腕で彼らを守るからである。主は嫉妬を完全な武具として身に着け、被造物を武器として敵に復讐するであろう。主は義を胸当てとして身に着け、真の裁きを兜の代わりに身に着けるであろう。主は聖さを無敵の盾とするであろう。主は激しい怒りを剣として研ぎ澄まし、世界は主と共に愚かな者たちと戦うであろう。ソロモンの知恵 5:15-20

いと高き方が定めた労苦や農作業を憎んではならない。シラ書 7:15

鋤を持ち、鋤棒を誇り、牛を追い立て、その労働に従事し、雄牛の話ばかりする者が、どうして知恵を得られるだろうか。彼は心を耕し、牛に餌を与えることに勤勉である。昼も夜も働く大工や職人も同様である。印章を彫り、彫刻し、様々なものを作ることに勤勉であり、偽造の像に身を捧げ、仕事の完成を見守る者も同様である。鍛冶屋もまた、金床のそばに座って鉄の仕事を考えている。火の蒸気が彼の肉体を衰弱させ、彼は炉の熱と戦う。ハンマーと金床の音が常に彼の耳に響き、彼の目は自分が作るものの型をじっと見つめている。彼は仕事を終えようと決意し、それを完璧に磨き上げることに心を尽くす。陶工もまた、仕事場に座って足でろくろを回し、常に注意深く仕事に取り組み、すべての仕事を番号に従って行う。彼は腕で粘土を形作り、足元に力を傾け、それを溶かすことに尽力し、炉を清めることに勤勉である。これらの人々は皆、自分の手に信頼を置き、それぞれが自分の仕事に賢明である。これらの人々がいなければ、町は住むことができない。彼らは自分の好きな場所に住むことも、行き来することもできない。彼らは公の場で求められることもなく、集会で高い地位に座ることもない。彼らは裁判官の席に座ることもなく、判決を理解することもない。彼らは正義と裁きを宣言することもできず、たとえ話が語られる所にも見当たらない。しかし、彼らは世の秩序を維持し、彼らのすべての望みは自分の仕事にある。シラ書 38:25-34